



こうきた 1月号

杉並区立高円寺北子供園

みんなのしあわせを創るために



園長 川嶋 佳恵

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様お揃いで、穏やかな新年をお迎えされたことと存じます。

今年は、午（うま）年です。昨年（ひ）年は、「植物が最大限まで成長した状態」を意味し、「これまでの努力や準備が実を結ぶ年」でしたが、午年は、「芽が力強く成長し、葉が大きく広がり、生命力が最高潮に達するような状態」を意味し、「行動力と前進力に満ち、新しい挑戦や発展に適した勢いある年」と言われています。そして、今年は、午は午でも60年に1度めぐってくる丙午（ひのえうま）の年で、火のエネルギーが重なり、「情熱と行動力が最高潮に達し、「困難を乗り越えて、大きな成果を得やすいパワフルな年」、「勢いとエネルギーに満ちた大きな飛躍が期待される年」なのだそうです。2026年は、すべての方が頑張りたいこと、これまで迷っていたことや諦めていたこと等に意欲的にチャレンジし、追い風に乗りながら、物事が良い方向に飛躍的に動いていく年になりますようお祈り申し上げます。

さて、様々な場面でお伝えしていますが、杉並区では、どの校種においても『教育ビジョン2022』で掲げている「みんなのしあわせを創る杉並の教育」をめざし、それぞれの段階に応じながら様々な教育に取り組んでいます。高円寺北子供園がめざす「すべては子どもたちのために」をモットーとするどの子ども取りこぼすことのない質の高い教育・保育はもちろんですが、その中の特別支援教育も「みんなのしあわせを創る教育」の一つです。

子供園では、発達面や情緒面で何らかの躓きがあっても、学級の中で、友達や保育者と関わったり、共に生活したりすることで成長し、その子だけでなく学級の一人ひとりが互いのちがいを認め合いながら自分らしく生きていけるよう関わり方や接し方、環境構成を工夫しながら教育・保育に取り組んでいます。日々の教育・保育の中では、担任を中心に子供園保育士や介助員がフォローに入り、支援を必要とするお子様の個々の発達や特性、躓きにに応じた関わりをしながら、みんなと一緒に年齢に応じた様々な経験を重ね、就学前には、自立や自律ができるように、そして、必要な時には、自ら助けを求めることができる人になるよう、支援・援助を行っています。しかし、特別支援教育は、支援を受けるお子様だけに向けたものではないと考えます。支援を必要とするお子様と一緒に生活する学級の子どもたちの心や様々な人に関わりながら互いのちがいを認め合い共に生きる力を育てることもとても大切にしています。

かつて、私が担任だったころ、感情のコントロールが難しいお子様を受け持ったことがありました。穏やかに過ごしている時は、友達との関わりも楽しむのですが、思い通りにいかないことがあると、大きな声を出したり、手が出てしまったりします。周りの子どもたちは、そのような状況になると、「どうしたんだろう」と心配して、集まってきます。気持ちが収まらない状態のその子は、集まってきた子どもたちに乱暴な言葉を言ったり、手足をばたつかせたりします。その子は、苛立つ感情を自分では止められない特性を持っていました。私や介助の先生は、その子の気持ちを受け止め、嫌だった気持ちに共感し、気持ちが落ち着ける場所に移動して、状況を受け入れられるよう様々な援助を工夫しました。それと同時に、学級の子どもたちにも、その子は気持ちを落ち着かせるためには、少し時間が掛かるということや、そういう時はそっとしておいてあげてほしいことなど、その子の特性を分かりやすく伝えました。そして、私自身、子どもたちがその子に接するときのモデルとなるように関わり、本人が頑張れた時には具体的にたくさん認めて良さをみんなに知らせました。また、その子を仲間として大切にしていってほしいという気持ちをいつも伝えていました。

年長の2学期の終わりに劇遊びに取り組む機会がありました。劇の取り組みが始まった頃、その子は、ふざけることによる注目行動を繰り返し、劇がうまく進みませんでした。同じ劇に出る子どもたちは、自分たちなりに考え、注目行動に対しては、あえて気にしないようにし、その子の出番が来ると、声を掛けたり、セリフを教えたりして劇を進めていきました。しかし、なかなか皆が思っているようには動いてくれませんでした。ところが、発表まであと1週間になった頃、その子が、突然、自分から役になってセリフを言ったり、お話に合わせて動いたりしたのです。私は、心からうれしくて、褒める言葉を掛けようとしたのですが、それより先に周りにいた子どもたちが口々に「○○ちゃん、上手にできたね。すごいね。」「頑張ったね。」と笑顔で声をかけたのです。私は、その子の成長や頑張りがとてもうれしかったのですが、それと同様に学級の他の子どもたちが、その子を大切に受け入れ、私と同じようにその子の成長を心から喜んでいる姿がうれしくて、胸がいっぱいになりました。

子供園がめざしている特別支援教育は、支援を必要とするお子様自身が自分の特性を知り、できることは、自分で頑張る、できないことは、助けを求めながら社会の中で生きていく力を身に付けられるようにすることと同時に、学級の一人ひとりが、周りにいる友達の特性や個性を理解し、受け入れ自然に見守ったり、助けたりしながら、様々な人と共に生きていく力を育てる教育です。幼児期の子どもたちは、当然ながらまだまだ未熟です。周りの友達の自分とは違う部分や感性、特性、行動を受け止めることができず、否定的な言葉を言ってしまうたり、排除的な態度をとってしまうことがあるかもしれません。保護者の皆様は、そのようなお子様の様子に心痛めることもあるかもしれません。しかし、大事なことは、園生活や家庭生活の中で、そのような場面があったときに、どう指導するか、どう諭していくのかなのではないのでしょうか。私は、それが教育だと信じています。支援を必要とする子どもたちも、共に生活する子どもたちも、それぞれに必要な力を身に付け、大人になって社会の中でもみんなが、自然に相手の個性やちがいを受け入れ、互いを尊重した関わりができるようになると、みんながしあわせで素敵だなあと考えます。3学期も「みんなのしあわせを創る教育」が実現できるよう職員一同、力を合わせて頑張ります。



《今日の指導》

★3歳児 うさぎ組

3学期がスタートしました。今学期も「学級のみんなと一緒に嬉しい・楽しい」を感じられるようにしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いを出しながら何かになったりつくったり、体を動かしたりして遊ぶ楽しさを感じる。
- 教師や学級の幼児と一緒にお話ごっこをしたり、動いたりすることを楽しむ。
- 身の回りのことで、自分でできることは自分で行おうとする。

1月は、手回しゴマに繰り返し挑戦したり、凧をつくって揚げたりしながら正月遊びに親しめるようにしていきます。またお話ごっこを繰り返し行う中で、動物になって伸び伸びと表現することを楽しめるようにしていきたいと思います。

★4歳児 くま組

3学期から、当番活動や誕生会のお楽しみをするなど、新しいことにも少しずつ取り組んでいけるようにしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分のやりたいことに向かって考えたり、工夫しようとしたりして楽しむ。
- 学級の友達との関わりややり取りの楽しさを感じる。
- 生活に必要なことに、学級の友達と一緒に進んで取り組む。

引きゴマや凧揚げ、かるた、簡単なすごろくなどのお正月遊びを楽しめるようにしていきます。またいろいろな楽器に触れ、音を鳴らす楽しさや、みんなで一緒に合奏したり歌ったりする楽しさを感じられるようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

子供園生活も残り3か月となりました。2学期に広がった友達関係がより深まり、互いに育ち合っていくことができるよう支えていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分のめあてに向かって、あきらめずに挑戦する楽しさを感じる。
- 友達と共通のめあてをもち、自分たちで遊びを進めていく楽しさを感じる。
- さまざまな楽器に触れ、音楽に合わせて鳴らす楽しさや友達と気持ちを合わせて合奏する楽しさを感じる。
- お正月遊びをする中で、数や文字に興味・関心をもつ。

凧づくり、かるた遊びなどお正月遊びを楽しむ中で、文字に興味をもったり、言葉の面白さに気付いたりすることができるようにしていきます。また、遊びの中で楽器に親しめるようにし、2月のミニミニコンサートにつなげていきます。